

肥満症外科手術のながれ (減量・代謝改善手術)



『肥満症外科手術(減量・代謝改善手術)』は、肥満症治療の一部です。
手術を行った後にも継続して治療を行う必要があります。

手術の適応となる可能性がある患者さん



内科
診察



外科
診察

*外科医・内科医・メンタルヘルスの専門家
(心療内科医・精神科医・公認心理師など)・
麻酔科医・管理栄養士・看護師・理学療法士・
ソーシャルワーカー など

- **各種検査** 全身状態を確認
- **管理栄養士による栄養指導** 食習慣の評価
- **メンタルヘルスの専門家との面談** メンタルヘルスの評価や
(心療内科医・精神科医・公認心理師 など) 精神疾患の診断
- **手術適応の判断**
 - 『手術前の減量』
 - 患者さんの『意欲』、『治療に対する理解度』
 - 『家族の協力』

多職種*の医療者で
構成された
チームでの検討

この手術が
患者さんに適切であるかを
総合的に評価します。

細かい治療の流れは施設によって多少異なります。

手術が可能であると判断された患者さん

外科入院

およそ10日～2週間

患者さんの状態や施設により
異なることがあります。

退院後 ●多職種によるチーム医療
●定期的な外来通院

長期間

外来通院のペースや栄養指導の内容、
チーム医療を支えるスタッフの職種など、
細かい治療の流れは施設によって
異なります。

食事のスケジュール

手術後～ かまなくてよい
流動食

(タンパク質、ビタミン、ミネラル強化)

術後15日～ かまなくてよい 舌でつぶせる
流動食 + 半固形食

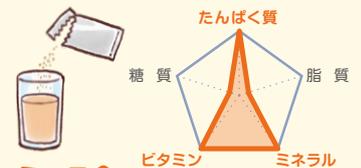
(タンパク質、ビタミン、ミネラル強化)

術後1か月～ 容易にかめる 普通の硬さの食事
軟菜食 ~ 通常食

(タンパク質中心、ビタミン・ミネラル補充)

食事について

- 手術後は食べ方の工夫が必要です。
- 手術により、胃の容量が非常に小さくなっているため、個人差はありますが、術後1か月ほどまでは通常食を摂ることができません。



フォーミュラ食

エネルギー源である糖質、脂質を極力少なくする一方で、必要十分量のタンパク質、ビタミン、ミネラルを含む低カロリー代替食です。食事療法に使用することがあります。

医師、栄養士、看護師などからなるチームが、
一丸となって、患者さんをサポートします。

どうすれば体重を減らして、肥満で起こっている病気が
改善できるかを、専門医に相談することが大切です。

「肥満症」を正しく理解して、
健やかな心と体を取り戻しましょう。

メモ
